

東日本大震災とその復興  
五百旗頭 真氏  
(復興庁復興推進委員会委員長、熊本県立大学 理事長、  
ひょうご震災記念 21 世紀研究機構理事長)

(2012 年度 第 29 号『獨協大学学報』より転載)

本日はお招きいただき、大変光栄に思っております。獨協大学の立派なキャンパスに防災を意識した改革が進んでいることを感じ、大変心強く、これだけしっかりした建物であれば、大きな地震にも耐えられるだろうと思いました。日本は 4 つのプレートがぶつかっている場所にあります。

特に、関東の下はプレート同士が複雑骨折をしているかのように入り組んでいます。プレートの動きによる地震は東日本大震災のように広い範囲に被害をもたらし、直下地震は 1995 年の阪神・淡路大震災のように局地的に大きな被害をもたらします。大揺れと言うよりは前兆もなく、一発大きく跳ね上げ、家も電車も宙に浮かせてしまうのです。私自身、神戸の西宮市に住んでいたので、ピアノが応接間の端から端まで飛ぶなど揺れの恐ろしさを身をもって知りました。ビルの屋上にある阪急伊丹駅では、阪急電鉄が空中に投げ出されたのが落ちてきてビルを潰してしまい、兵庫県庁では、防災対策室の扉が物で塞がってしまいました。

このような阪神・淡路大震災の甚大な被害を教訓に、それ以後、国を挙げての建物の耐震化が進みました。東日本大震災で震度 7 を記録した宮城県の栗原市で犠牲者が一人も出なかったのは、その成果といえるでしょう。また、地震発生時に激震の三県を走っていた 10 本の新幹線が全て安全に止まった。全国各地の地震観測器によって実現された緊急地震速報は、地震の経験を活かした日本の技術だと思います。日本は地震に強い国になったといえるでしょう。しかし、東日本大震災で想定外だったのが津波です。水が体当たりしてくる力は予想をはるかに超え、7m の津波に対して 10m の防潮堤があっても防ぎきれず、結果的に 2 万人の人が亡くなってしまいました。先日、マニラでの講演で、津波の話をしたら「なぜ被害者が 2 万人で済んだのか」と質問されました。私としては被害者が多いと思っていたので、意表を衝かれましたが、外国の人にとっては、2004 年の 20 万人が亡くなったスマトラ沖地震に較べて、犠牲者が少ないと思ったのでしょうか。比較は簡単にはできませんが、この差を生み出したのはソフト、教育だと思います。三陸沿岸の学校では「てんでんこ」といい、地震がきたら、身一つで高台に逃げるように指導されていたのです。東日本大震災で犠牲になったのは小中高全部合わせて 250 人、日頃の教育の賜物ですね。

東日本大震災で亡くなった方の中で多かったのが、人のために動いていた方です。南三

陸町の防災センターで避難を促す放送をし続けていた方や水門を締めに行った消防士の方、老人ホームや身体障害者の施設で働いていた方々は誰一人として介助が必要な方を置いて逃げる人はなかったといます。悲惨の極みの中で人の輝きが見えてくるのは悲しいことですが、いたるところで立派な振る舞いがあったことは希望だと思います。

このように、人が人を助けるというのは非常に心強いもので、阪神・淡路大震災では77%の人が自助と共助によって助けられました。もちろん、災害の規模が大きければ、公助が重要になるのは言うまでもありません。東日本大震災で、阪神・淡路大震災で初動の遅さによって人命を救えなかったことを反省した自衛隊が大活躍しました。全国の各連隊に小隊・30名を24時間待機体勢をとるようにしていたこと、統幕長のもとで陸海空を一元的に指揮するようにしていたことが大きかったと思います。

東北では原発事故の影響もあり、いまだに自宅に戻れない方も多くいます。私が議長を務めた復興構想会議では、東北を絶対に見捨てないを合言葉に、できることはなんでもするという姿勢で復興プランをつくりました。阪神・淡路大震災では国費を使うのは復旧までで、それ以上のことは自分たちでしてくださいというのが政府の姿勢でした。その結果、神戸港を以前より大きくする計画は頓挫し、神戸は衰退、結果的に国費の無駄遣いになってしまったのです。同じ轍を踏まないためにも、東北を以前に増して良くしなければいけないと思います。再生可能エネルギーを使い、高齢者への包括的なケアも備え、防災への取り組みもしっかりとある安全に生きていける場所。その他の地域のモデルとなるような場所にしなければいけないと思います。そのための財源として、復興税が導入されてよかったですとっております。これが次の大災害への先行投資になり、さらに希望になればと思います。この国はどこでも災害が起こります。明日はわが身です。ただ悲惨に投げ込まれても全国の同朋が決して見捨てるまい、必ずできる限りのことをして助けてくれる。その信頼があってこそ生きて行けるのではないのでしょうか。